

## BRICsものしりコラム

## インド建国の精神：多様性の中の統一

インド準備銀行が5月に発行した新10ルピー(約20円)硬貨は、鉄の中心部分と外環にニッケルとブロンズを使ったユニークなものです。また、鉄の中心部にはアショカ王の「獅子柱頭(Lion Capital of Ashoka)」の図柄が描かれています。インド準備銀行の説明では、硬貨の2重構造と「獅子柱頭」が、インドの建国の精神である「多様性の中の統一」を象徴しているとしています。鉄、ニッケル、ブロンズを組み合わせた2色・2層の構造が「多様性の統一」を象徴するとの説明は比較的に分かり易いのですが、アショカ王の「獅子柱頭」が何を意味するのかは具体的にイメージしにくいのではないかと思います。

アショカ王は権力者として初めて仏教に帰依し、仏教の布教に努めた賢王であり、仏教経典などを通じ「阿育王」として我々にも親しまれています。アショカ王は紀元前3世紀に広大なインド亜大陸を初めて統一した王としても有名ですが、その王宮に建立されていた東西南北4方を向いた4頭の獅子を柱頭に頂いた石柱が、1963年にサルナートで発掘されました。初めてインド亜大陸を統一した王を象徴する「獅子柱頭」が、インド統一のシンボルとして「国章」とされたのはこのような経緯からです。アショカ王によって統一されるまでのインドは、先住民のインダス文明がアーリア人によって滅ぼされこれを正当化するバラモン教を成立させた歴史を持ち、アショカ王以降もイスラム勢力の侵入とムガル帝国による支配、近代では大英帝国による植民地支配など、異民族の侵攻と文化の再編を繰り返してきたことから、多民族、多文化、多宗教のモザイク国家が作られてきました。このインドの多様性をインド人によって統一し、独立を勝ち取るのが建国の父「マハトマ・ガンジー」の理念であり、それがネルー初代首相やその後継者によって受け継がれてきました。アショカ王の「獅子柱頭」はその理念が具体的イメージとして表されたものと言えます。実際、インドの多様性は驚くほどで、指定カースト以外に500以上の指定部族が存在し、公用語も22言語があり、宗教もヒンドゥ教、イスラム教、キリスト教、シーク教、仏教など多種多様です。同じく「パンチャシラ」と呼ばれる「多様性の中の統一」を国家理念に掲げるインドネシア以上にインドが複雑な社会であることが分かります。

国家の安定と発展には、国民が何らかの価値観を共有することが必要ですが、民族間、宗教観の争いが絶えないのがインドの実情です。そのために「多様性の中の統一」の理念を繰り返し唱える必要があるのでしょう。そう言えば、08年のアカデミー作品賞を獲得した「スラムドッグ&ミリオネアー」の原作で、世界的ベストセラーとなった小説、「僕と1ルピーの神様」の主人公の名前はラマ・ムハンマド・トーマスと言い、インドの3つの代表的宗教を象徴する名前を与えられています。

## ＜関連するファンドに関わる事項＞

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とし投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資一単位当たりの価値が変動します。従ってお客様のご投資された金額を下回ることもあります。又、投資信託は、個別の投資信託毎にリスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては各ファンドの「投資信託説明書(交付目論見書)」を良くご覧下さい。

お客様には投資信託のご購入にあたり、以下の費用をご負担いただきます。

○申し込み時に直接ご負担いただく費用

- 申込手数料 上限 3.675%(税込)

○換金時に直接ご負担いただく費用

- 信託財産留保額 上限 0.5%

○投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用

- 信託報酬 上限年 2.1%(税込)

○その他費用の詳細は各々の投資信託の「投資信託説明書(交付目論見書)」をご確認下さい。

\*費用の料率につきましては、HSBC 投信が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係る費用はそれぞれの投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前に良く「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧下さい。

HSBC 投信株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第 308 号

(社)投資信託協会会員/(社)日本証券投資顧問業協会会員

### 当資料のお取り扱いにおけるご注意

当資料は、HSBC投信株式会社(以下、当社と言います)が情報提供を行う目的で作成したものであり、特定の投資信託等の売買を推奨・勧誘するものではありません。当資料は法令に基づく開示書類ではありません。当資料の全部又は一部の無断転載を禁じます。当資料は信頼できると考えられる情報をもとに作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。当資料に記載された市場の見通し等は作成時点での当社の見解であり、今後予告なしに変更されることがあります。また、当資料に記載された当社の見解等は、将来の市場環境等の変動を示唆するものではありません。